平成28年度　事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念 「ともにいきる」
理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢
・人を大切にします
ひとりの「人」として向き合おうこと。
相手の良さを知り、自分の良さを知ること。
相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。
人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。
仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。
行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。
法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。
先が見通せることで保護者に安心感を与えること。
できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。
はたらくことができることを実証し続けること。

◎総 括
【組 織】
国においては、社会福祉法人が福祉の重要な担い手としてあり続けるため、社会福祉法等の一部を改正する法律が平成28年4月に一部施行されました。主な改正事項である事業透明性の確保、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みに積極的に取り組んでいくとともに、当法人の基本理念に基づき、体制を整えていきます。
8月には長野市一般指導監査、9月、1月には事業監査が実施されました。まだ指摘事項がありましたので、誠実に改善していきます。
職員は、各所属センターでの業務はもちろんのこと、運営会議、企画会議、プロジェクト会議等にそれぞれ参加し、法人運営全体に目が届くようになり、法人職員としての意識が高まりました。職員の健康面では、定期的な健康診断の実施はしていますが、メンタルヘルス対策が課題となります。

【経 営】
平成28年度は、昨年度に引き続き、障害福祉サービスにおける自立支援給付を軸とした事業に絞り込むことによって財政基盤の安定化を目指しました。
収入面については、昨年比、予算比ともに上振れてはいますが、定員のあるサービス全体の利用稼働率としては、74%とまだ伸び白があります。
中核となる職員が経営面について意識していけるように、各センター管理者が月に1回運営会議を開催し、各センターの稼働状況、収入面について確認し、課題を抽出し、それに向けた具体的な対策、スケジュールを検討実行してきました。
支出面については事務費事業費については徹底したコスト削減を行い、人件費については、基本給のベースアップとともに、賞与は年間4,5ヶ月分を支給しました。退職金については、7月より中小企業退職金共済に加入しました。最低限の掛金での加入のため、今後掛金の見直しも情勢に応じて必要になってきます。

【事　業】

各事業において、運営委員を中心に全職員、法人の理念を意識して取り組むことができてきていると思います。引き続き、質の高い事業運営を目指していきます。チーム支援を大切に事業目的を誠実に遂行し、その成果を地域に示していき、選ばれる法人を目指していきたいと思います。今年度、事故報告の中に、個人情報の紛失が2件、社用車による物損事故が7件発生しました。社会福祉法人として、避けなければならない内容であります。すべてにおいて、リスクアセスメントを大切にし、安心・安全な事業運営に向けて体制強化を図っていきたいと思います。平成29年度新たに放課後等デイサービスを立ち上げに向けて、プロジェクトチームを組んで試行的に実施してきました。県内他に類のない特化した事業内容が整備できたと自信を持ち、事業内容を広く周知していき、選ばれる事業にしていきたいと思います。開所以降、法人全体で安定事業に向け意識的に取り組んでいきます。また生活介護事業の実施場所については、昨年来ご指摘の通り、手狭になってきている現状があるため、平成30年移転に向けて、検討を進めていきたいと思っています。

3. 法人内会議

	会議名	回数	主な協議内容等
(1)	理事会 評議員会	5	・5月　理事・評議員会　（平成27年度事業報告・決算報告） ・11月　理事・評議員会　（上半期報告） ・2月　理事会　（定款変更、新評議員推薦） ・3月　評議員選任解任委員会　（新評議員選任） ・3月　理事・評議員会　（平成29年度事業計画・予算）
(2)	幹部会	14	・法人経営、運営計画　・年間計画作成 ・研修内容調整　・個別面談の実施
(3)	運営会議	10	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
(4)	企画会議	10	・法人内研修計画、避難訓練等企画立案

4. 諸会議への参加

長野市ふくしネット（就労部会、子ども部会、相談支援連絡会）

千曲坂城福祉ネット（子ども部会）

須高自立支援協議会（しごと部会）

5. 職員研修

（1） 外部研修

月	人数	内 容	月	人数	内 容
4月	1人	就業支援担当者研修	10月	2名	地域発達支援研修会
6月	1人	就業支援担当者研修スキルアップ（前期）	11月	1名	相談支援専門スキルアップ研修
6月	2人	障害福祉サービス従事者新人研修	11月	1名	南関東ブロック会議経験交流会
7月	1人	障害者虐待防止権利擁護研修	11月	1名	訪問型職場適応援助者支援スキル向上研修
8月	1人	就業支援基礎研修	11月	3名	強度行動障害支援者養成研修
8月	1人	ジョブコーチカンファレンス	12月	2名	千曲坂城自立支援協議会こども部会講演会
8月	1人	訪問型職場適応援助者スキルアップ研修	12月	2名	相談支援従事者初任者研修講義部分
8月	2人	相談支援従事者現任研修	12月	1名	県就労支援部会生活支援研修
8月	2人	就業支援担当者研修	1月	1名	相談支援専門員スキルアップ研修
8月	1人	就業支援担当者研修スキルアップ（後期）	1月	1名	サービス管理責任者研修・就労
9月	1人	長野県福祉職員関係者研修	2月	1名	主任定着支援担当者経験交流会
9月	2人	発達障害就労支援研修	2月	1名	障害者就業・生活支援センター全国フォーラム
9月	1人	にじいろキッズらいふ実践報告会	2月	1名	サービス管理責任者研修・介護
10月	1人	障害者虐待防止権利擁護研修	随時		普通救命講習

（2） 内部研修

月		内 容	月		内 容
5月		幹部会による職員全員面談	11月		感染症予防について
5月		小林茂夫氏による職員面談	3月		各部署実践報告会
6月		ビジネスマナー研修			相模原殺傷事件を受けて

・外部研修として、27研修35名の職員を派遣研修として派遣しました。研修に行くことがメインであった様子から、研修目的、業務に生かす点等事前に明確にすることにより、法人の代表としての参加姿勢、意欲がみられるようになりました。参加復命書、部署毎での報告会等のシステムをより確実なものとするために、部署内での、報告会の徹底、全体回覧等の努力がみられ、一定の成果がうまれました。法人の代表として、研修に参加する意識、自覚が徐々にではありますが、生まれてきました。
今後、法人のキャリア形成のビジョンをしっかり持ち、主体性に重点を置き、資質向上に向けた取り組みを強化していきます。

・内部研修として、昨年度より引き続き「企画会議」が中心となり内部研修の企画運営すすめてきました。「ビジネスマナー研修」「感染予防」「部署実践報告会」を開催しました。また、相模原殺傷事件を受けて、時間をかけて法人理念と照らし合わせ、我々の在り方を深めてきました。利用者・保護者の方が、安心・安全にサービスを利用していただけるよう、場面場面を大切にしていきたいと考えています。

・その他

6月17日　11月10日　避難訓練

8月24日　長野市一般指導監査

9月7日　生活支援センター実地指導　　1月25日　発達支援センター実地指導

・苦情受付、事故報告

※苦情受付

年度　件数	8件

主な内容、分析

【苦情の分類】
職員の対応：　6件（就業・生活支援センター　5件　生活支援センター　1件）
その他：事務処理　不具合　1件（就業・生活支援センター）、建物管理　1件（就労支援センター）
申出人：　ご本人　3　　保護者　2　　関係機関　3

苦情受付後、苦情解決責任者からの指示により、解決策の検討、樹立を行う。申出人にその改善方法等検討内容を伝え、理解を得ることができました。解決が困難で、第三者委員による話し合いの助言・立ち会いを必要とするには至りませんでした。苦情を法人にたいする要望と捉え、誠実に対応できた結果だと考えています。その要望を法人内で、周知徹底することにより、サービスの質の向上に向けて取り組んでいきたいと思います第三者委員への報告については、状況報告も含め意識していきたいと考えています。

※事故報告

年度　件数	24件

主な内容、分析

〔事故報告内訳〕（発達支援センター：8　生活支援センター：7　就労支援センター：5　ポツセンター：4　）
〔事故の分類〕
・発達支援センター　（受け入れミス：　1件、物損：公用車接触事故　　4件）（無断外出：　2件　切創：　1件）
＊事故要因として、主に支援者間の連携確認不足が考えられます。送迎中の自動車事故については、安全運転管理上重大な事故と判断し、部署内で事故対策会議を実施し、事故要因を分析し対策の樹立、経過後の検証を行いました。それにより、送迎ルートの危険マップを作成、全体への注意喚起も含め周知徹底を図っています。外出時（そり遊び）の切創事故については、丁寧に保護者に謝罪し理解を得ることができましたが、安全安心に重点を置き、リスクアセスメントの視点で検証を行いました。

・生活支援センター　（他害による怪我：　4件　　物損：　1件　　服薬ミス：　　1件　個人情報紛失：　　1件）
＊同一利用者による他害行為による事故が頻繁に発生。環境設定や個別対応等対応を行ってきたが、想定外の行動にその都度体制整備を実施している。物損事故では、公用車の破損（後部ガラス破損）が発生しました。破損原因が特定できず、対策として安全運転管理指導のもと全公用車の破損箇所の確認を実施しました。個人情報紛失については、利用者のハガキ紛失の内容でした。個人情報の意識をしっかり持つことと同時に、法人全般の在り方について協議をすすめました。

・就労支援センター　（物損：　2件　　利用者　転倒：　　1件　　備品紛失　：　　2件）
スタッフによる公用車の建物への接触事故が発生、安全運転管理指導（運転同行確認）を実施しました。連続しての発生のため、部署内で事故対策会議を実施し、事故要因を分析し再検証を行いました。それに加え安全意識向上も兼ね、送迎ルートの危険マップを作成、全体への注意喚起も含め周知徹底を図っています。
施設備品（清掃道具）の紛失は、管理面での要因が大きく、事前事後の確実な確認を実施するようにしました。

・長野圏域障害者就業・生活支援センター　（転倒：　2件　公用車事故：　1件　　社用携帯の紛失：　1件　）
車椅子利用者の入り口スロープでの転倒が発生、単独来所による単独事故で事前の体制整備が適わなかった事故であります。スロープの急勾配が主な要因です。ハード面での早期改善は困難があるため、暫定対策として、注意喚起の掲示及び対応方法について整備しました。社用携帯の紛失については、個人情報をどう責任をもって扱うべきか法人の課題として、再度法人全体を見直し、文章管理等あり方全般について協議し、全体周知をおこないました。

平成　28　年度　社会福祉法人ともいき会　ウィズ発達支援センター　年度末事業報告

1	事業目的	○就学前児童から学齢期の児童発達支援、放課後等支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援、放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	児童発達　定員10人　開設時間平日9:00～18:00　サービス提供時間9:00～15:00 放課後等　定員10人　開設時間平日9:00～18:00　サービス提供時間15:00～18:00（放課後時間に合わせて） 休日9:00～18:00　サービス提供時間8:30～18:00（休みに合わせて）	
4	職員体制	児童発達　サービス管理責任者1人、保育士2人、指導員1人 放課後等　サービス管理責任者1人、指導員3人、（うち常勤は1人） 地域生活支援事業　指導員等20人（非常勤職員）	
5	実績報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○日々の支援の中で一人ひとりと向き合いながら、今大切なこと、必要な力をアセスメントし、本人の持っている力を十分に発揮することが出来るようアプローチを行いました。	通年
		○個別支援計画に基づいた支援を行い様子を記録し、保護者の願いに沿った療育・活動を実施しました。また、保護者・関係者との連絡や支援会議にて情報共有を図りました。	通年
		○本人、保護者、学校他関係機関とニーズや支援の方向性を確認しながら個別の療育を実施しました。	通年
		○保育園・幼稚園への訪問を定期的に実施し、保護者との面談の際に情報共有し支援に役立てました。	通年
1	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実していきます。	○個々の年齢・発達段階・利用日により、活動内容や活動場所を選定し活動することができました。 ・社会でのマナーや交通ルール（右側歩行・横断歩道の横断等）を学んだり、社会体験を積むことができるよう、季節に合わせた活動や交流を計画、実施しました。 ※〈児童〉4月：お花見、5月：調理体験、6月：買い物学習、7・8月：水遊び・プール活動、8月流しそうめん、9月：小遠足、10月：ハロウィン、11月：りんご狩り、12月：クリスマス会、1月：雪遊び・凧上げ、2月：豆まき、3月：おつかい学習等、月毎に体験学習を実施。 ※〈放課後〉5月：プール（ゆーぷる木崎湖）、6月：苺狩り（小諸）、7月：ボーリング、8月：バーベキュー、9月：上越水族館、10月：パン作り、11月：ディズニーシー、12月：クリスマス会、1月：初詣、2月：飯山雪祭り。 ※〈大人〉外食、ボーリング、カラオケ、ゲームセンター忘年会	通年

1	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実していきます。	○「はたらく」ことについて、本人や保護者の方も将来について考える機会となるよう、他部署と連携し、就労体験を実施しました。	10月
		○6月より就労準備コースを試行的にスタートしました。 ・毎週火曜日に通常講座を行いました。 ※座学計15回 あいさつ、報連相、身だしなみ、コミュニケーション講座 ※作業計13回 仕分け、組み立て、清掃、賞味期限チェック、PC導入、振り返り、忘年会 ・週1回のミーティングを行い、プログラムの作成、振り返りを行いました。	6月～
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者面談や参観、関係機関訪問（学校、保育園、幼稚園等）、送迎時や電話による保護者や学校との連絡により、様子や情報の交換と、共有を行いながら支援を行いました。	随時
		○支援会議や自立支援協議会（子ども部会）、地域発達支援会議に参加し、情報交換やチーム支援を行いました。	随時
		○特別支援学校の先生を招き、全保護者を対象に就学説明会を行いました。	6月
		○就学予定の保護者を対象に、参観・放課後等デイサービスの説明会を行いました。	2月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○センター内・部署でミーティングを行い、情報共有の他に、プログラム内容の精査、個別支援計画書を含めた課題検討を行い、支援方法・技術の向上に努めました。	センター 月2回 児童週1 放課後月2
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、状況の確認と検討、今後に向けて再発防止に努めました。	随時
		○外部研修へ参加をしました。 ・地域発達支援会議・学校説明会・園開放報告会・子ども部会（長野市・千曲坂城）・普通救命講習等	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	随時
		○就労準備型放課後等デイサービス開設に向けて、周知先のリストアップを行い、高校9校、市委託相談員、相談支援事業所、医療関係、行政、長野市部会、千曲坂城事業所説明会等で周知活動を行いました。	随時
		○長期休みの集中講座では、利用を検討している方が体験できるように、新規利用者向けの講座を設定し、実施しました。	7・8・3月

（発達別紙）

1．利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H26	年度	15	1	4	6	4	1	1027	54.8%
H27	年度	21	6	2	7	6	6	1303	54.1%
H28	上半期	16	0	7	3	6	2	766	64.0%
	下半期	24	2	9	7	6	6	999	78.8%
	年度	24	2	9	7	6	6	1765	71.4%

※H26.8~定員5人から定員10人に変更。

放課後等デイ

		登録者数	小学生	中学生	高校生	その他	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H26	年度	42	16	13	13	0	8	3105	95.3%
H27	年度	50	21	13	16	0	6	2874	98.9%
H28	上半期	47	20	12	15	0	8	1384	95.0%
	下半期	49	20	13	16	0	2	1379	95.5%
	年度	49	20	13	16	0	10	2763	95.3%

※H26.8~定員15人から定員10人に変更。

○分　析

○児童発達　利用児童は4月から増加。リハビリ・園行事・感染症等で欠席する児童がいるものの稼働率は増加傾向にあります。保健師・療育コーディネーターからの紹介やパンフレットの効果から見学・体験希望が増え、利用に繋がっています。また、児童発達支援事業のない千曲市の利用が増えています。
○放課後デイ　新規利用者は、10名と例年より微増でした。新規開設に伴う他事業が増加しており、長野市南部や千曲市からの新規利用傾向が見られます。また、地域の小学校からの利用希望もありますが、受け入れが出来ない現状があります。
・就労準備型の開設による新規利用は3名でした。新年度からキャリアサポートセンター開設に向け、2・3月には竹重病院のOTや相談員からの問い合わせで見学10名・体験2名がありました。新年度から新たに5名利用者が増える予定であり、地域のニーズを感じています。
○数字からは見えませんが、学齢期に放課後、土日等たくさんのサービスを利用していた方々が卒業し、卒後大人のサービスを利用することで夕方の利用者数（タイムケア、移動支援）が増加しています。土日等の新規利用者の受け入れは現在見送っていますが、利用希望は多い状況です。サービス量、種類等課題となっています。

2．連　携

		支援会議		家庭訪問		関係先訪問	
		児童発達	放課後デイ	児童発達	放課後デイ	児童発達	放課後デイ
H26	年度	19	52	2	0	18	17
H27	年度	35	50	8	0	54	15
H28	上半期	17	22	5	0	24	30
	下半期	25	25	9	0	31	19
	年度	42	47	14	0	55	49

連携先

・福祉（市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、他サービス事業所）、教育（各幼稚園保育園、各特別支援学校、各学校）、長野市教育センター、北信教育事務所・医療（稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、各保健センター）・行政（市町村健康福祉部、こども未来部等）、その他（保護者、親戚）

○分　析

○児童発達　保健師、療育コーディネーターからの紹介で利用に繋がるケースが多くなっています。園と併用している方には園訪問・関係者会議をすることで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には情報提供や園開放に同行することで就園のお手伝いをしています。また、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等を訪問し、宣伝用のパンフレットを置いてもらったり配布をお願いし、相談員と情報交換を行い利用に繋げています。
○支援会議では、学校・家庭・事業所間での共通した支援方法の検討がなされるようになり、それを基にして個別支援計画の作成や見直しがなされるようになってきました。就労準備型の開設に向けては学校や相談支援事業所、医療機関、行政、教育関係などの関係先を訪問し周知活動やパンフレットの配布等を行っています。
　幼小中高で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、あくまで安心した園、学校生活、家庭生活が送れることを目標に支援に取り組みました。

平成　28　年度　社会福祉法人ともいき会　　ウィズ生活支援センター　　年度末事業報告

1　事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。	
2　事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業、自立訓練事業（生活訓練）
3　事業概要	生活介護　定員14名　開設時間平日9:00～18:00　サービス提供時間9:00～16:00 自立訓練　定員　6名　開設時間平日9:00～18:00　サービス提供時間9:00～16:00	
4　職員体制	サービス管理責任者1名、生活支援員5名（内、自立訓練担当1名）、准看護師1名（非常勤）、運転手2名	
5　実績報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者の1日の様子を日誌に記す事でご家族と連絡を取り合いました。必要に応じて電話連絡や面談・支援会議を行う事で利用者・家族の思いを聴かせて頂き支援を行いました。 ○19名の利用者・保護者に対し年間2回の面談と支援会議18件、障害支援区分調査6件を行いました。 ・利用者それぞれに担当を設けモニタリング会議を行い、管理者が個別支援計画を作成していく流れをセンター内で強化していきました。 ○作業や支援内容に変更があった際は、ご家庭に相談・報告の徹底を図りました。	随時
1	活動内容の充実を図ります。	○自立訓練では就労移行と連携をしながら支援を行いました。利用者一人一人と定期的に面談を行い、今後の方向性について丁寧に計画を立てました。計画の中で自己実現に向けた活動を展開しました。	随時
		○生活介護の「はたらくプログラム」に関しては、就労組・生活組に分かれて2カ所で作業を取り組みました。 ○外部の事業所から請け負っている内職作業は、就労支援センターと連携し作業を分担して行う事で、週 1回定期的に平均 2,000個の作業の仕入れ・納品をする事が出来ました。 作業に携わっていなかった利用者に対しても作業に携われるようにスタッフで話合いや作業の見直し・改善をする事で、上半期より 2倍の作業を行なえるようになりました。 ○法人内の清掃作業や利用者宅から金魚すくいのポイ作成・カレンダーの封入作業の依頼が来て納品を行いました。	随時
		○「くらす・あそぶプログラム」に関しては、スタッフ間でプログラムを担当し、スケジュールを立てることにより、スムーズな流れで活動が出来るようになりました。 ・外出：上田城・象山神社・足湯 等 利用者が増えた事により、2つのグループに分かれて、別日に外出をする事で、安全や利用者の嗜好に配慮して活動が行えました。 ・外食：2ヶ月に1回（ファミリーレストラン、ショッピングモール内フードコート）	

1	活動内容の充実を図ります。	・調理実習：2ヶ月に1回（ビーフシチュー・豚汁・ホットケーキ） ・映画鑑賞：月1～2回 ・音楽活動：月1～2回 音楽に合わせて身体を動かしたり、ペットボトルの楽器を使いリズムをとる 等 ・創作活動：月1～2回 季節に合わせて絵画・粘土で飾り付け 等 ・アート活動：2ヶ月に1回（講師を迎え）墨遊びや絵の具、クレヨンを使い絵画 ・ジム活動：月1～2回 ・体操：月2～3回 映像を見ながら体を動かしたり、ストレッチ 等。 ・ゴミ拾い：10月・11月 ウィズ近辺	10月～3月
		○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月 1回体重測定・保健だより（熱中症・感染症予防）の制作を行いました。 ○利用者の身体状況の変化が見られた際は、保護者に連絡を行いました。また、利用者の平均体温を把握し、早退及び経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。	随時
1	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○養護学校・生徒の実習生を延べ9名、他事業所からの体験1名受け入れました。 ○見学者として保護者12名、本人6名、担任4名、相談支援専門員5名来て頂き、センターの取り組みを説明させて頂きました。 ○定期的に看護学校からの実習生を受け入れました。 ○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明し、利用や実習の受け入れの促進を働き掛けました。 ○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえるような場を作りました（2回）。 ○長野市障害福祉ネットへの参加（月1回）。 ○事業所説明会へ参加をしました。	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故・苦情・気づきの中から、再発防止に努めるようにしました。各プログラムに向けてのシュミレーションを行う中で、スタッフ間の情報の共有方法について見直しを行いました。 ○スタッフ間でのミーティングでは、個別支援計画の目標に基づいた支援の見直しや確認、情報共有を中心に行い利用者の目標を意識するように努めました。 ○外部の研修に参加し、センター内で報告会を行いまいました（3回）。	随時
1	自立訓練利用者の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○生活面での相談を行いつつ、欠勤が続く時には家族の方と連携をし、自宅への訪問を行いました。安心して通える環境作りに取り組み、少しずつ出勤日数の増加に繋がりました。	随時

（生活別紙）

1. 利用状況

(1) 生活介護

		期末利用者数	新規利用者数
H28	上半期	19	3
	下半期	18	
	年度	18	

障害種別

身体	知的	精神	発達
4	16		
4	15		
4	15		

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
H28	上半期	3	8	4	3	4.1
	下半期	1	7	5	4	4.4
	年度	1	7	5	4	4.4

○分　析

○4月から養護学校を卒業された方が3名利用開始となりました。内、1名が3月下旬に家庭の都合により、利用終了となったため、年度末の時点で利用者が18名になっています。
○実利用者数の1日当たりの平均が前年度11.1人に対し、今年度末時点で13.7人。障害支援区分の平均が前年度4.0%に対し4.3%に上がっています。また、実利用者数の障害支援区分5･6の者の割合が前年度23%に対し34%と10%以上上がっています。区分が上がった背景として、今年度6件区分調査に同席させて頂きました。
○見学者として保護者12名、本人6名、担任4名、相談支援専門員5名の方に来て頂きました。養護学校からの見学が大半で、実習に向けて見学に来られている方が多い傾向がありました。
○活動面においては、利用者の人数に対し室内の手狭さがあるため、利用者の増加に伴い2グループに分けて活動を行う様に徹底しました。センターから外出する際は、1度に全員外出するのではなく、日にちをずらして活動を行う事で、スタッフの混乱や利用者同士のトラブル減少に心掛けると共により安全に楽しく過ごして頂けるようにしました。

(2) 自立訓練

		期末利用者数	新規利用者数
H28	上半期	5	2
	下半期	4	1
	年度	4	

障害種別

身体	知的	精神	発達
0	2	5	0
0	0	6	0
0	2	11	0

○分　析

○いずれは就職することを目的として、まずは生活リズムを整えることや通えるようになる･体調を整えるなど、それぞれのペース･目標に合わせた利用をしていただいています。
○現状として曜日を決めての出勤や休みが続く方が多い傾向があり、作業よりも面談を中心に行っています。
○自立訓練の方にも、学習会の中で課題を考え、そこから年間予定及び個別支援計画を立てるセルフプランを行っています。人によって自分の現状が見え、しっかりと詳細な計画を立てることができています。

2. 月別利用者

(1) 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
開所日	20	19	22	20	19	20	20	20	21	18	20	22
定員	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
延人数	275	280	312	277	260	287	269	260	277	237	262	292
稼働率	98%	105%	101%	99%	98%	103%	96%	93%	94%	94%	94%	95%

(2) 自立訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	6	6	8	7	6	5	4	3	3	3	4	4
開所日	21	20	22	21	21	21	21	20	22	20	21	23
定員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
延人数	89	79	104	93	96	76	52	40	42	36	49	55
稼働率	71%	66%	79%	74%	76%	60%	41%	33%	32%	30%	39%	40%

※人数の減少として、1名B型事業所へ、1名入院のためサービス停止、1名就職となっています。

3. 送迎利用者数（生活介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	329	339	377	336	332	354	332	321	344	310	335	374

平成　28　年度　社会福祉法人ともいき会　ウィズ就労支援センター　年度末事業報告

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加してくことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。	
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援
		助成金・補助金	○職場適応援助者（ジョブコーチ支援・訪問型）
3	事業概要	定員：就労移行20人　開設時間平日8:30-17:30　サービス提供時間9:00～16:00 施設外就労（老人福祉施設での清掃活動）を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。	
4	職員体制	○管理者1名　○サービス管理責任者1名　○就労支援員2名　○生活支援員2名　○職業支援員1名	
5	事業計画		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一般就労を目指します （目標就職者数10名以上）	○平成28年度就職者数10名	随時
		○利用者一人一人の会社見学・体験実習・就職目標の年間計画を立てることにより、事業所として意識的に動くことができ、就職に繋げることができました。	4月
		○平成28年度実習16件。企業見学22件。企業見学により、働くイメージを持ち、意欲的に実習に取り組むことに繋がりました。	随時
1	企業内で働く場所を提供します	○施設外就労として 　月木…真島の里、火金…七二会荘での訓練を行いました。 「掃除ができるようになる」ではなく、作業の中にある「手順及び覚え方・習得の仕方」や「企業の中でのマナーやルールを守ること」など、企業の中での作業を通してより具体的な力が身につけられるよう訓練を展開しました。	毎日
		○企業提携業務 　企業より、内職作業を請け負い、施設内における作業を展開しました。工場でのライン業務ならびに集中力を高められる内容となっており、作業によっては指先の器用さが必要とする作業を、それぞれの個別支援計画に合わせて目標を持って取り組みました。	毎日
1	個々のニーズに合わせても目標を立て、それぞれの目標の達成を目指します	○毎週の個人面談を実施し、その中で取り組んできたことの振り返りと、次回に向けての目標設定を行い、個別支援計画に反映させることによって、それぞれに合った目標設定及び達成をしていくことができました。	毎週
		○「就職までの道のりチェックリスト」を活用し、課題を明確にし、本人自身によるセルフプランの見直し・作成を行うことにより、具体的な目標設定を行う事ができました。	半年ごと
1	新規利用者に来て頂ける様な活動を展開します	○一般公開型の学習会を開催しました。各養護学校の生徒や関係機関へ周知活動を行いつつ、ウィズ利用者と合同での学習会を実施してきました。これまでに13名の方が来所されました。学生が多いためすぐに利用には繋がりませんでしたが、翌年の実習希望に繋がりました。	毎月
		○定時制・普通高校への訪問・周知活動を行いました。 （長野第一・つくば開成・SNEC長野・篠ノ井俊英）	随時

1	関係機関と連携を強化します	○関係機関との連絡を密に行い、積極的に関係者の支援会議へ参加しました。	随時
		○しごと部会への参加をしました。	隔月
1	職場開拓を実施し、ネットワークの構築を目指します	○ジョブコーチによる、求人票からハローワークを通して企業との連絡を取り、会社見学を実施、企業との関係を構築してきました。	随時
		○10月と2月に開催された合同企業説明会への参加をし、新規企業への訪問を行うなかで、見学や体験に繋がるネットワークの構築ができました。	随時
1	職員の就労支援技術の向上を目指します。	○外部研修への参加をしました。 平成28年度外部研修参加　6件	随時

（就労別紙）

1．利用状況

		期末登録者数	新規利用者数	稼働率
H26	年度	12	14	73%
H27	年度	13	7	67%
H28	上半期	12	7	61%
	下半期	12	5	52%
	年度	21	11	54%

障害種別

身体	知的	精神	発達	その他
0	11	9	5	
0	13	11	3	
0	8	3	6	
0	3	1	1	
0	11	3	7	

※就労アセス利用者除く

1）月別利用人数（定員20名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	21	20	22	21	21	21	22	21	20	20	20	23
登録者	16	16	13	15	14	12	11	9	10	10	12	12
延人数	262	258	259	286	260	225	192	160	168	186	218	239
稼働率	62%	65%	59%	68%	62%	54%	48%	38%	38%	47%	55%	52%

平均　54%

2）出身地域別

	上半期	下半期	年度計
長野市	15	3	18
千曲市	2	1	3
須坂市		1	1

3）H28年度新規利用経路

	上半期	下半期	年度
市町村			
労働関係			
医療機関			
教育機関	8		8
相談機関	8	3	11
その他	1	2	3

○分　析

○下半期からの新規利用は5名でした。内1名これまで自立訓練を利用する中で、実習に伴いサービス変更を行い、就職に繋がりました。
　その他、相談支援専門員からの紹介、中ポツからの見学・実習から利用に繋がるケース、在職中に本人及び保護者からの相談による離職後の利用となっています。
○平成28年度より、土曜日に単独での事業所説明会を開催の他、12月より、公開型の社内学習会を開催し、12名の参加がありましたが、多くが学生のため、すぐに利用には繋がらなったが、今後、学校からの実習の希望に繋げることができました。継続して外部の方の参加型の学習会を行いつつ、集客活動を展開していきたいと思います。

2. 実習状況

		短期トレーニング	施設外支援	ジョブコーチ支援数
H26	年度	20	21	14
H27	年度	20	21	14
H28	上半期	6	6	
	下半期	7	7	
	年度	13	13	

実習先(職　種)

丸金(きのこ工場)、あんずの里物産センター(清掃・厨房補助)、西友須坂店(店内業務)、西友粟佐店(清掃)*2、丸善(厨房補助)、ホーライ(菓子製造補助)、佐藤商店(野菜加工)、アルプスウェイ(コンテナ洗浄)、長印、松代総合病院(看護補助)、平安堂長野店(開店前準備、清掃、陳列)

○分　析

○過去に雇用していただいたり、実習を行ったことのある企業から直接声を掛けていただくことや、ハローワークの求人票から利用者ご本人自身の希望、または事前にジョブコーチによる企業への連絡や訪問を行い、利用者へのアプローチなど積極的な実習を行うことができました。
○セルフプランを軸とした年間の実習・就職予定計画書を作成し、計画的に行うことによって積極的な実習を行うことができました。
○体験を位置づけとした実習をもう少し取り入れることができると良かったと感じました。
○下半期には、再度計画書の見直しを行いながら、意図的に実習のアプローチを行う中で就職に繋がるケースがありました。
○実習面では自発的にハローワークより求人を持ってくることや、合同企業説明会への参加を行い、見学や実習に繋がるケースが多く見受けられました。
○課題として、訓練の中で利用者の自己理解プログラムを積極的に行うことが必要だと感じました。現状と本人の望む働き方に差があることがありました。見学・体験実習にて、実際に仕事をする中での課題を感じてもらうことや企業の方からも伝えてもらうことで、更に仕事に対する意識の向上が図れると良いと感じました。

3. 就職状況

		就職者数	定着支援件数
H26	年度	13	
H27	年度	6	
H28	上半期	4	4
	下半期	6	5
	年度	10	9

就職先(職　種)

○丸金(きのこ工場)、あんずの里物産センター(清掃・厨房補助)、丸善(厨房補助)、アルプスウェイ(コンテナ洗浄)、
○西友須坂店(店内業務)、ホーライ(菓子製造補助)、佐藤商店(野菜加工)、長印(荷受け・清掃)、西友粟佐店(清掃)

○分　析

○実習を経ることにより、企業・本人双方からのマッチングを行い、就職に繋がる。年度初めに年間の予定表を立て、スタッフ会議にて情報を共有し、足並みを揃えることでスムーズな実習への計画を行うことができました。
○下半期も同様に実習を行う中で安定して就職者を出すことができました。
○3月末で離職された方が1名。就職に向けた準備の段階でご本人が課題について理解し、働く姿勢を身に付けることや職場の方との関係作りや連携の面での課題がありました。反省として次の支援に繋げたいと思います。

平成　28　年度　社会福祉法人ともいき会　　ウィズ相談センター　　年度末事業報告

1　事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。	
2　事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、○障害児相談支援事業
3　事業概要	開設時間平日9:00～18:00	
4　職員体制	相談支援専門員2人（専従1人、兼務1人）	
5　実績報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方を中心に継続した支援を行っています。同じ法人とはいえ、相談支援機関として客観的な視点をもてるようにしてきました。	随時
		○兼務専門員は自分の所属する新規利用者の相談支援（就労）を実施しました。新規利用者を担当することで、その後の利用についても利用者が安心感をもてる等有効な方法でした。また新たに、他事業所の計画相談を実施しました。	随時
1	計画相談支援を行います。	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画の作成を行ってきました。	随時
		○相談支援の質が問われるようになり、今後更にモニタリングの重要性が増しますが、丁寧なモニタリングができませんでした。	随時
1	関係機関との連携を強化します。	○基本相談、サービス利用を行っていく上で、必要に応じて家庭、行政、教育、福祉、その他機関との連携を行ってきました。	随時
		○関係機関で実施された資質向上のための各種研修に参加しました。 相談支援専門員現任研修、相談支援専門員スキルアップ研修（基本、就労、児童）	随時

5　利用状況

	障害児相談支援（子ども）			特定相談支援（大人）			相談支援専門員数
	登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H24年度	16	16	3	9	10	3	3（兼務3）
H25年度	33	34	5	36	39	7	1（専従1）
H26年度	50	70	4	36	36	9	2(専従1、兼務1)
H27年度	49	70	12	43	39	17	2(専従1、兼務1)
H28年度	56	66	9	44	49	15	2(専従1、兼務1)

○分　析

・平成28年3月においてサービス利用計画の作成率は、全国では子ども97.0%、大人93.5%、長野県では子ども98.8%、大人98.4%、長野市においては作成率は子ども100%、大人98%とほぼ全員に利用計画が作成されています。
・量的なものに関しては、利用計画がいきわたっている中、今後大きな伸びはないと思われます。当法人の提供するサービスにおいては、サービスの性質上利用する方の入れ替わり頻度が多いため、今後も定期的に新規利用者の利用計画は作成していく見込みとなっています。
　全国的にも、量的な担保がされてきた中で、相談支援専門員の質的な向上が求められ課題となってきています。長野県、市においても人材育成のための研修が活発に行われ、現任研修、スキルアップ研修等に参加しました。丁寧なモニタリングを行うことで、利用者との更なる信頼関係を築いていけるが、手が回らない現状がありました。今後法人としても、相談支援専門員の増員、人材育成が必要になってきています。

（相談別紙）

1．利用状況

		障害児相談支援（子ども）			特定相談支援（大人）			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H24	年度	16	16	3	9	10	3	3（兼務3）
H25	年度	33	34	5	36	39	7	1（専従1）
H26	年度	50	70	4	36	36	9	2(専従1、兼務1)
H27	年度	49	70	12	43	39	17	2(専従1、兼務1)
H28	年度	56	66	9	44	49	15	2(専従1、兼務1)

○分　析

・平成28年3月においてサービス利用計画の作成率は、全国では子ども97.0%、大人93.5%、長野県では子ども98.8％、大人98.4％、長野市においては作成率は子ども100％、大人98%とほぼ全員に利用計画が作成されている。

量的なものに関しては、利用計画がいきわたっている中、今後大きな伸びはないと思われる。当法人の提供するサービスにおいては、利用する方の入れ替わり頻度が多いため、今後も定期的に新規利用者の利用計画は作成していく見込みとなっている。

全国的にも、量的な担保がされてきた中で、相談支援専門員の質的な向上が求められ課題となってきている。長野県、市においても人材育成のための研修等活発に行われ、現任研修、スキルアップ研修に参加した。丁寧なモニタリングを行うことで、利用者との更なる信頼関係を築いていけるが、手が回らない現状があった。今後法人としても、相談支援専門員の増員、人材育成が必要になってきている。

平成　28　年度　社会福祉法人ともいき会　長野圏域障害者就業・生活支援センター　年度末事業報告

1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、地域に根ざした就業・生活支援に関する総合的な役割を果たすとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2	事業内容	雇用安定事業・生活支援事業 長野県短期トレーニング事業・長野県OJT推進員派遣事業
3	事業概要	開所時間：9:00～18:00、月～金
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー　1名　　就業支援ワーカー　4名（うち1名　定着支援担当） 主任職場定着支援ワーカー　1名 生活支援ワーカー　1名　　計7名
5	実績報告	

優先順位	事業目標	年度末実績報告	実施月
1	就職や生活面での不安や悩みを聞き、一緒に考えます。	○登録者数：504名（新規111名） ○相談・支援件数：延べ10,596件（H27年度8,237件）	年間
		○アセスメント 就労移行支援事業所や企業等の体験実習を通じてアセスメントを実施しました（就労移行支援事業所等の見学・体験：47件、ワークトレーニング：4件）。体験実習時には、事業所訪問を行い状況確認や振り返りを通じて本人と方向性の検討をしました。	随時
		○目標や目的の情報共有について 福祉施設の利用や職場実習を行う際には、ご本人のことを知ってもらう他、本人の目標を共有できるよう紹介状を作成しました。	随時
1	職場開拓を実施します。 職場実習を行います。	○実習件数：122件（H27年度　148件） ○就職件数：74件（H27年度　85件） 短期トレーニング事業活用率約 56% ○OJT推進員派遣：0件	年間
		○企業開拓 ハローワークや求人開拓員と連携して新規企業と関わることが増えています。 圏域内の就労移行支援事業所等に情報を周知したり、当センター登録者から候補者のリストアップを行いました。下半期には、当センター登録者の就職増加に向けて求人・実習受け入れリスト、求職者リストの作成を行い、部署内で共有し、実習の機会に繋げました。 ○職場実習 就労移行やハローワーク、就労継続B型からの活用が増加しました。より多くの就労施設の利用に向けて定期的な周知活動を図りました。 OJT推進員について派遣における条件があることから、派遣ができていません。職業センタージョブコーチ等と連携して実習の支援を行ってきました。さらなる実習の支援充実に向けて部署内のスタッフの役割を見直しました。	随時

1	職場定着支援の充実を図ります。 在職中の方や障害者を雇用している企業の声を聞き、相談・支援を行います。	○定着職場訪問件数→731件（H27年度　471件）	年間
		○職場訪問による定着支援 　定着支援ワーカー、主任職場定着支援ワーカーについては在職者への支援に特化し、毎月の職場訪問件数の目標値を設定および、職場訪問リストをミーティングで検討し、職場訪問の強化を図りました。下半期には、精神障害・発達障害の定着支援強化に向けて登録者の見直しを行い、職場訪問先の幅を広げてきました。 ○企業支援 　下半期には雇用している企業に障害者雇用に関するアンケートを実施し、企業側のニーズの調査を行いました（170件のうち回答：111件）。頂いた意見を元に定着支援の参考にしました。 ○主任職場定着支援ワーカーについて 　困難事例対応件数：62件 　困難となってから対応するだけでは、問題が複雑になっていることが多く、対応が難しいことがありました。そのため、困難となる可能性がある事例については、早期より対応を図りました。	随時
1	圏域内のネットワークの構築を目指します。	○生活面での連携 　相談支援専門員とは、福祉への移行や手帳・障害年金取得、住まいの相談など長期に亘り易い案件を相談支援専門員と連携を行いました。 ○他機関との連携 　当センターをより活用してもらえるようリーフレットの作成およびディケアにおけるジョブガイダンスに参加しました。また、就労移行支援事業所や特別支援学校等で出前講座を実施しました（6件）。ディケアの利用者のニーズが高いことから、ディケアの見学および周知活動を図りました。	随時
1	就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。	○在職者交流会 　6月、10月、2月にテーマを設け、小集団で座談会形式で話し合いを行いました。参加者が増加傾向にあり、一人一人と十分な関わりがとれないことがありました。また、同じ悩み共有できるように10月と2月には精神障害・発達障害に特化した座談会形式での交流会を行いました。今後は、在職者だけだなく、求職者に対してもニーズに応じた交流会や講座を検討していきます。	年間
1	職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。	○スケジュールについて 　毎日17:15からミーティングを設定し、一度に情報共有を行うなど業務の見直しを図りました。翌日予定している支援内容の確認、ケース報告を行いました。 ○支援力向上に向けて 　面談等でのアセスメントの視点や聞き方、実習中の支援等で不安に感じることがありました。そのため、センター内で勉強会を開催し、面談時の心構えや制度について2回研修を行ったり、その都度、ケース検討を行ってきました。 ○研修参加について 　県内外の研修に積極的に出席しました。今後に向けて研修に参加した際に部署内で報告をし、情報共有をし、部署全体での資質向上につながりました。	随時

（長野圏域障害者就業・生活支援センター　別紙）

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
H26	年度	513	135
H27	年度	631	122
H28	上半期	441	49
	下半期	504	62
	年度	504	111

障害種別・就業別

	身体		身体		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	27	17	184	68	93	10	314
求職中	17	9	52	19	87	11	167
その他	3	1	14	3	5	1	23
合計	47	27	250	90	185	22	504

1）月別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来所	137	138	174	112	103	105	160	114	97	96	122	117
電話	369	301	412	318	311	336	372	374	306	350	344	346

2）相談・支援

		件数
H26	年度	10,128
H27	年度	8,237
H28	上半期	4,667
	下半期	5,929
	年度	10,596

3）出身地域別

	上半期	下半期	年度
長野市	309	354	354
千曲市	42	50	50
須坂市	51	56	56
小布施町	2	3	3
坂城町	5	6	6
信濃町	5	6	6
飯綱町	9	9	9
小川村	6	4	4
高山村	5	7	7
その他	7	9	9

4）新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度
ハローワーク	8	4	12
職業センター	0	0	0
特別支援学校	4	16	20
就労移行	13	8	21
福祉施設	2	7	9
行政	3	0	3
直接利用	8	12	20
その他	11	15	26
合計	49	62	111

○分　析

・新規登録者について
　ご家族やご本人から『ホームページを見て』と直接相談を受けることが増えました。就労移行やハローワークからは職場実習（短期トレーニング制度の利用）の目的による相談、市町村委託の相談員からは就労の見極めの相談が多いです。また、昨年度に引き続き精神障害、発達障害の診断を受けたばかりの方や障害者手帳を所持していない方の登録が増加しています。
・登録者について
　定期的な相談がないケースの整理をするため、登録者の抹消を行いました(H28年4月時点で登録者392名)。現在の登録者の中でも、長期にわたり在宅していたり障害をオープンにすることを迷っている等の就労準備段階のケースが増えています。また短トレ目的としてハローワークや企業から相談を受けるケースも増加傾向にあります。
・生活面について
　福祉サービス利用につながった相談は22件（就労移行18件、就労継続B型1件、就労継続A型3件、その他0件）です。そのうち、見学や体験調整については52件（就労移行44件、就労継続B型3件、就労継続A型4件、その他1件）です。そのほかの生活面の相談については、”障害や病状の理解(18.8%)”、”人間関係（職場、友人、家族等）(16%)”、”不安解消・情緒安定(14.5%)”の相談が多い状況にありました。就労準備段階への支援・相談が必要な登録者が増加しています。
・相談・支援について
　過去2年間の平均は、半期平均4,591件(上半期5,020件・下半期4,162件)でした。今年度は、上半期は4,667件でしたが、下半期に5,929件と増加しました。定着支援への取り組みもあり、例年を上回る相談件数となりました。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	短トレからの就職率
H26	年度	143	4	
H27	年度	148	2	26%
H28	上半期	76	4	
	下半期	46	0	
	年度	122	4	56%

実習先（職　種）

　過去2年間の平均実習件数は、144件であり、今年度は上半期については例年よりも増加したものの下半期は減少傾向となりました。例年に比べて就職説明会から実習につながるケースが少なかったことが要因として考えられます。例年に比べて実習延べ件数は低迷したものの、実人数に対しての就職率は全体で56％で、過半数の実習生が就職につながりました。上半期と下半期をまたいで長期にわたる実習を行ったケースが多いことで就職率が上がったと思われます。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問
H26	年度	88	441
H27	年度	85	471
H28	上半期	42	365
	下半期	32	366
	年度	74	731

主任職場定着支援ワーカーの相談状況

	身体		身体		精神	その他	合計
		重度		重度			
業務内容	0	0	7	4	15	1	23
対人関係	1	1	4	1	5	1	11
生活面	0	0	10	2	12	0	22
その他	0	0	3	0	3	0	6
合計	1	1	24	7	35	2	62

うち、支援に要した期間

1週間未満	2
1～2週間未満	3
2週間～1ヶ月未満	27
1～3ヶ月未満	26
3～6ヶ月未満	4
6ヶ月～	0
合計	62

○分 析

・ 就職について
過去3年間の平均就職件数、86件（上半期：49件、下半期：42件）に対して74件と減少傾向にありました。どこにも所属せず、当センターで相談している求職者の就職件数が伸びないことから（就職件数：12）、下半期は実習や就職活動の支援強化に務めました。短トレ活用10件中6件が就職につながりました。
・ 定着職場訪問について
過去2年間の平均半期定着職場訪問件数は、228件（上半期：245件、下半期：210件）であり、今年度は、定着支援担当者の増員もあったことで、年度当初より職場訪問件数の目標値を設定し在職者への支援を強化ところ、全体的な訪問件数の増加につながりました。年度途中より、精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30％（199件）とましたが、年度全体としては27％でした。
・ 主任職場定着支援ワーカーについて
今年度より配属となり、対応した困難事例は62件でした。そのうち、11件は離職に至っています。ご本人や企業間の関係が良好でない状態で相談となることも多いため、離職につながるケースがあると考えられます。早期に問題解決ができるよう、早めの支援対応が必要であると感じます。